

かわせみ通信

野外施設自然情報

野外施設の情報は、ホームページで詳しく見られます

県立自然環境保全センター 生き物

検索



自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

このかわせみ通信では、主に4~6月に記録された野外施設の自然の情報を掲載しています。

<最近の話題>

鳥どうしの「食う食われる関係」

まずはオオタカの迫力ある写真をご覧くださいませう。観察路のすぐ脇の木にとまり、鋭い爪で獲物のヒヨドリを押さえている凛々しい姿です。

オオタカはネズミやウサギなどを捕食することもあります。主には鳥類を獲物とします。特にハトなどをよくとっています。捕えた獲物は地面に押さえつけ、羽をむしって食べるのでそのあとには散乱した羽が残されます。保全センターはエサ場としてよく利用しているようで、オオタカの食痕は園内でもたびたび見つかリ、トラツグミやアオバトの羽が残っていました。大量の鳥の羽を見て驚いた人もいないのでしょうか。

そして春、多くの野鳥好き来園者の注目を集めたのは夏鳥であるコサメビタキとサンコウチョウの繁殖の様子です。コサメビタキは4月上旬から下旬に交尾、営巣、抱卵が確認されました。サンコウチョウは5月下旬に「月、日、星、ホイホイホイ…」と盛んにさえずり、6月上旬にはペアが巣に出入りする様子が確認されました。しかし、その後サンコウチョウの巣はカラスに襲われたのか、巣が壊れ、その後同じ場所での繁殖はあきらめたようで、子育ての様子までは確認することはできませんでした。

親鳥からみると、巣を壊し卵やヒナを襲うなんて、カラスは悪者のように感じてしまいます。でもカラスからみれば、カラスも自然の中で生きていくためにはエサを捕らなければなりません。子育て中であればヒナのた



オオタカ(3月25日撮影)



オオタカの食痕、羽はアオバト(6月22日撮影)



抱卵中のコサメビタキ(4月23日撮影)



抱卵中のサンコウチョウ(6月11日撮影)

めにもたくさんのお餌が必要です。オオタカとヒヨドリ、カラスとサンコウチョウなどの鳥たちの間にも食う食われる関係があり、命はつながれていくのだということを感じる春の出来事でした。

< 気になる生き物 >

庭園から森へ

6月1日、来園者の方からウメガサソウの花が咲いていると情報をいただきました。確認に行くと、東屋の脇（地番杭 M9 付近）のコナラやしデの根元にたくさん生えていました。ウメガサソウはイチヤクソウ科の植物で、やや乾いた樹林内に生育します。その名の通り、ウメのような白い5弁の花を傘のように下向きに付けます。高さは10cm程度ですが、草ではなく小型の低木です。

このエリアは開園当時、庭園緑化の見本園として県内に自生する木を植栽した明るい庭園でしたが、現在はうっそうとしています。木々が育ち、樹林に生育する植物が現れ、この地域本来の森へ移り変わりつつあると感じます。



ウメガサソウ

死体も貴重な記録です

5月5日、朝の見回りで、ある動物の死体が見つかりました。長く黄色っぽい胴体、顔はカワウソに似ています。テンかとも思われましたが、足が黒くないことや耳が丸いことなどから、イタチと判定されました。ケガをしている様子は見られませんでした。耳が少し切れていたり、抜けている歯があり、高齢の個体であるように思われました。

イタチは水辺を好む動物で、主に水田や河川敷にすみ、林や畑、人家の近くに現れることもあります。ほぼ肉食でネズミや鳥のヒナを捕食したり、水に入って魚やザリガニなどの甲殻類を捕食することもあります。県内では準絶滅危惧種に指定されていて、なかなか人目に触れることのない動物です。自然観察園では1992年の1月と7月に計3回目撃され、1998年1月にセンサーカメラで撮影されていますが、最近では記録がありません。

このような動物は死体であっても貴重な記録です。よく観察すればその動物がどのような生活をしていたのかわかることがあります。また、この場所にはイタチが生活できる自然が残されているということも言えるでしょう。次はぜひ生きている姿が見たいですね。



イタチの全身。
場所は竹見本園入口



正面からの顔

< 発見されたイタチの特徴 >

頭胴長: 33.0cm	・顎が白い
尾長: 15.5cm	・足先は茶褐色
体重: 670g	・尾の先は白くない
体色: 茶褐色	・耳が丸い

【ミニ観察会に参加しませんか？】

ボランティアの解説員とともに野外施設の生き物を観察します。

詳しくはHPで！

* 毎週日曜日・祝日の13:00スタート

* 申込不要・参加費無料

* 当日の13:00に本館玄関前に集合（所要時間は約2時間）





自然環境保全センター（旧自然保護センター）の傷病鳥獣の救護業務は、主に人間の活動が原因で傷ついて救護された県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を中心に昭和 53 年から行っています。

この「かわせみ通信」では、県民の皆様により持ち込まれた救護動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

<平成 29 年 4 月～6 月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種

1 位	スズメ	48 件
2 位	ツバメ	36 件
2 位	ムクドリ	24 件
4 位	カルガモ	22 件
5 位	タヌキ	15 件

人間が関係する主な救護原因

鳥類		哺乳類	
ネコなどに襲われる	19 件	疥癬症(かいせんしょう)	10 件
ガラス窓などへの衝突	15 件		
誤認保護	14 件		
釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	4 件		
ネズミ捕りなどの粘着剤にかかる	2 件		

<春のイベント実施報告>

救護動物特別公開を行いました！

去る 4 月 23 日（日）に、傷病鳥獣棟の一部を開放し、救護動物の特別公開を行いました。13：30～15：30 と短い時間ながら、83 名の見学者がいらっしゃいました。

野生下に戻れないために現在飼育されている、トビやノスリなどの猛禽類、変わった生態のアオバト、放野訓練中のタヌキなどを見学していただきました。普段なかなか見るこのとのできない野生動物たちをじっくりと観察していただくため、クイズや野生動物救護ボランティアによる解説を行いました。

また、春～夏にかけてお問合せの多い、野鳥の巣やヒナの展示、営巣や巣立ちヒナについての簡単な説明も行いました。見学者からは、巣立ちヒナの幼さに驚きの声もありました。

今年度も 10 月 22 日（日）、平成 30 年 3 月 25 日（日）に予定しておりますので、皆様のご来所お待ちしております。特別公開は小雨決行ですが、荒天等により中止や延期をする場合もございます。詳細は、開催直前の HP でご確認ください。

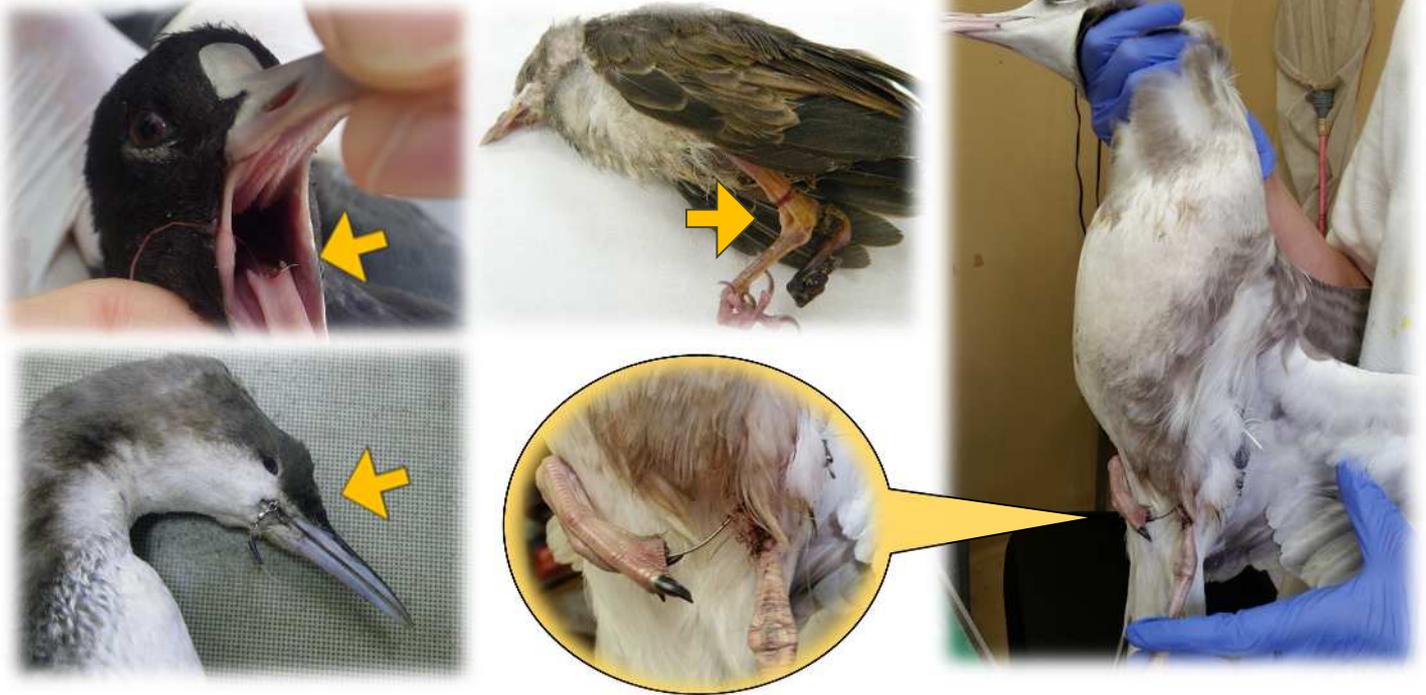


受付開始。開場前から並んでいただいていたいました！



巣や卵の展示。野生動物救護ボランティアの説明を聞きながら、興味深く見学していました。

<このような状態で持ち込まれます>



どうしてこのような状態になるの？

上の写真は、釣り針や釣り糸などに絡まったオオバン（左上）、ヒヨドリ（上中央）、ウミネコ（右）、シロエリオオハム（左下）です。

神奈川県内の山、川、海は一見、綺麗に見えるかもしれませんが、しかし、ゆっくり歩きながらよく下を見てみて下さい。きっと下の写真にあるようなビンなどのガラス片、釣り針や釣り糸、花火や洗濯バサミ、ペットボトルなどの落とし物を見つけることができると思います。これらが身体に絡まったり、エサと間違えて飲み込んだりすることで野生動物たちは、エサも食べることが出来ずにもがき苦しみながら最期を迎えます。たとえセンターで命は助かってケガの状態によっては、翼や脚などを失ったりして自然界に戻るできない場合があります。このようなことを防ぐにはどうしたら良いでしょうか。



私たちにできることは？

行政や企業、民間団体などで山・川・海それぞれにクリーンキャンペーンを実施しています。インターネットで検索をして参加するのも良い方法です。川や海では、裸足になることも多いので、野生動物だけでなく私たちにとってもケガをする恐れがあります。また、山は雨水を自然にろ過して私たちの飲み水になり、川や海には私たちの栄養源となる魚や貝などが暮らしています。夏を楽しんだ後は、宝探し感覚で「落とし物探し」をしてみませんか？自分の落とし物ではないからと思わずに、見つけたらひとつでも構いません。拾って帰りましょう。1人のちょっとした心の余裕と行動は、安全とより美しい自然を残すきっかけとなり、また傷つく野生動物を減らす一歩になるはずです。

【お知らせ】

傷病鳥獣受入れ定休日を正式に実施いたします。

定休日：毎週月曜日（祝日の場合は、翌日）、年末年始（12月28日から翌年1月4日）

傷病鳥獣救護に関するお問合せ番号が変更になりました。

お問合せ番号：046-248-0500 受付時間：9時00分から16時30分

ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。